

「つながりを未来に実感させる 広州日本人学校の創造」



令和4年4月13日
広州日本人学校
校長 加藤康徳
(R3年度派遣教員：北海道)

<本校の概要>

広州日本人学校は1995年4月に開校し、今年で創立27周年目を迎えました。近年の新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年の4月には449名在籍していた児童生徒が一昨年度は211名(令和2年10月)にまで減少しましたが、現在は272名(令和4年4月：小学部231名・中学部59名)にまで回復しました。中国国内の新型コロナウイルス感染症の状況に大きな変化が無ければ、年度内には児童生徒数が320名を越える予定になっております。

本校は、「科学城」という学術・研究施設と、緑の多い静かな環境の両方に恵まれた場所にあり、体育館、屋内プール、人工芝のグラウンド、空調完備の教室など、児童生徒が学習に集中できる施設・設備が整っております。また、周囲にはインターナショナル校があり、正に学園都市と言えるに相応しい環境にあります。その環境の中で日本各地から優秀な教員が集まり、小中連携の私立学校としての特色を活かしながら日々教育活動を実施しております。

<今年度の校長の思い>

令和3年度から新学習指導要領(中学校)が本格的に実施となり、学校の特色を生かした「主体的・対話的で深い学び」のある新たな教育が、スタートするはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染防止対策のために本校においても当初の計画は削減・縮小・変更を余儀なくされました。

ただ、このような「教育のラッピング状態」の中でも、本校は「子どもの教育を止めない」を合言葉に教育内容の工夫・改善を図ることで、適切な子どもの教育活動を保障することができたと考えています。

そこで今年度は、ウイズコロナ・ポストコロナを見据え、これまでの教育課題、そしてこれから予想される教育課題に積極的に対応するために、教育内容や組織の体制などの改善を図り、日本人社会から期待される学校としての価値を見据えながら「子どもが本校とのつながりを未来でも実感できる」教育活動を推進し、子どもの「豊かな学び」を実現させることにしました。

<教育目標> 「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成」

<めざす子ども像>

- 自ら考え、進んで学力の向上に取り組む子・・・「知」
- 自らちがいを認め合い、共に生きていく子・・・「徳」
- 自ら健康と安全に気を付け、たくましく生きていく子・・・「体」

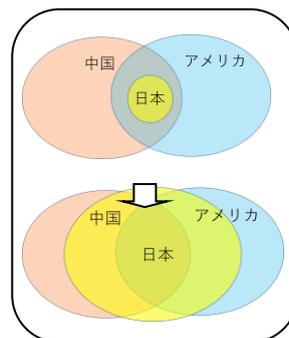
<教育目標設定の理由>

日本は地理的にアジアの中に存在しています。また、現在は欧米先進国に目を向けがちだった数十年前までとは違い、経済の面において、過去の複雑な経緯を踏まえながらも、アジア、特に中国との関係を一層深めていく必要に迫られています。

ただ、昨今の世界情勢を鑑みると、やはり欧米との関係も重要となってきます。日本はこの二つの巨大な勢力図の中で常にその立場を明確にしていくのと同時に、二国間に影響を与えることを世界から期待されているのも事実です。

そのような関係性の中、中国にある広州日本人学校の子ども達にとって、広い視野とともに、異文化に対する理解や、異なる文化を持つ人々と共に強調して、生きていく態度などを育成することは極めて重要なことだと考えました。

そこで、国際感覚を身に付けた児童生徒を育成するために、本校の教育目標を「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童生徒の育成」とし、改めて再設定しました。



<学校経営のスローガン>

「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」

<つながり5つ>

- ① 教師とのつながり
- ② 授業とのつながり
- ③ 子ども同士のつながり
- ④ 保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤ 中国とのつながり（※日中国交正常化 50 周年）



<学校経営のエンブレム>

<重点目標>

- (1) 授業を通して、確かな学力の向上を図る。
- (2) 異文化と共生できる資質や能力の育成を図る。
- (3) 全教育活動を通して、道徳教育の充実を図る。
- (4) 健康教育や体力向上の推進を図る。
- (5) 教育環境の整備（ICT等）の充実を図る。
- (6) GR-PCDA を意識した教育活動の推進を図る。



<学校経営サイクル>

(※スタートは状況に応じる)

<めざす学校の姿>

- (1) 「確かな学力の向上」を進める学校（知）
- (2) 「豊かな心」を育てる学校（徳）
- (3) 「体力の向上」を推し進める学校（体）
- (4) 「国際理解教育の充実」を図る学校
- (5) 現地社会・保護者から「信頼される」学校
- (6) 学校課題に組織的に素早く対応できる学校
- (7) 日本の教育関係法規に基づく学校

<めざす教職員の姿>

- (1) 自己に厳しく、研修と実践に励む教師
- (2) わかる授業、楽しい授業の創造に努める教師
- (3) 常に子どもに寄り添い、課題に素早く向き合い、解決しようとする教師
- (4) 夢と情熱を持ち続ける教師
- (5) 子ども・保護者・地域関係者・同僚から信頼される教師